

第 37 回母子保健奨励賞受賞者の業績

大西 由香里氏



保健師・北海道

助産師業務のなかで若年未受診妊婦の分娩に立ち会った体験から、予防視点の保健活動の重要性を認識し、保健師を志す。長沼町に入職後、平成6年度より道立保健所に勤務。思春期保健対策では実態調査や委員会の立ち上げ、学会発表等の取組みを積極的に推進。児童虐待予防活動においても、支援が必要な親子の早期把握、医療と保健の連携に努める。愛着関係に基づく子どもの健やかな成長のため、日々親子に寄り添う支援を展開している。

和田 嘉代子氏



歯科衛生士・福島県

行政の歯科衛生士として、子どもや保護者、妊婦の歯科保健指導を実施。平成22～24年は歯科医師会、保健福祉事務所の協力のもと、歯科保健事業の行動計画となる「歯科保健アクションプラン」の策定に携わる。同プランに基づく妊婦対象の歯科健診助成事業の実施をはじめ、栄養士と協働で東日本大震災後の母子の生活に寄り添った支援を行うなど、地域に根ざし、将来を見据えたヘルスプロモーションの推進に取り組んでいる。

眞下 由利子氏



助産師・群馬県

助産師会の活動を通じて行政の母子保健事業に関わり、両親学級、訪問事業、母乳相談等に従事。子育て・女性健康支援センターの電話相談、いのちの大切さを伝える出前講座、また全国的にも先駆的な取組みとなった孫育て講座については、立ち上げから関与。いずれも住民から好評を得ており、今日まで継続する事業となっている。また、助産師の資質向上を目的とした研修会の責任者を務めるなど、後継者の育成にも尽力している。

坂下 重子氏



保健師・石川県

入職当初から長年にわたり母子保健に携わる。妊娠期から就学まで切れ目ない支援を行うため、関係機関との連携や、そのためのツールとして「すこやか手帳」を作成するなど、母子保健体制の構築に尽力。個々の対象者との丁寧な関わりを心がけており、療育機関のない地域で、相談の場として「あそびの教室」の開設などに取り組む。日頃の地道な保健活動は、能登半島地震の支援活動にも活かされるなど、その功績は大きい。

伯耆 光代氏



保健師・山梨県

少子高齢化が急速に進行する道志村において、住民のライフステージを見据えた母子保健施策に取り組む。住民のニーズに応えながら、住民同士が自主性をもって連帯し、支えあえるような環境を整備。発育・発達が気になる子への早期からの支援を含め、乳幼児期から義務教育課程までをつなぐ、教育・医療と行政の連携による支援体制の構築にも注力している。地域の実態に即した母子保健活動は高く評価され、今後の活躍も期待される。

渡邊 智子氏



医師・長野県

児童養護施設等の子どもたちをたびたび受け入れる家庭に育った経験から、社会の支援を必要とする子どもたちの存在を常に意識しつつ、児童虐待防止や性に関する教育・啓発に取り組んでいる。具体的には、予期せぬ妊娠をした若年妊婦を対象に、妊婦自身による意思決定を導く「教育入院」、行政や大学と連携した思春期ピアカウンセラーの養成など、活動は多岐にわたる。母子を取り巻く環境の改善に多大な貢献を果たした。

河本 かよ氏



栄養士・滋賀県

フリーの栄養士として離乳食教室や食育活動、乳幼児健診等に取り組むかわら、育児サークルの運営、読み聞かせボランティア等を行う。地域の母親たちの声を直接聞きながらわかりやすい栄養指導や教材を考案し、その対応は多くの保育園・幼稚園で活用されている。また、障害をもつ子どもたちへの食事指導を12年間継続し、食事に課題を抱える多くの親子を支えてきた。食の悩みに向き合い、食の大切さを伝える母子保健活動の功績は大きい。

肥合 博子氏



保健師・熊本県

20年前、地域のむし歯有病率の高さを課題と捉え、妊娠期～乳幼児期～学童期の成長の過程に応じた歯科保健指導を開始。乳幼児健診等に歯科衛生士の指導を導入、ハイリスク児には個別対応を行い、小中学校ではフッ化物洗口をいち早く取り入れるなどさまざまな取組みを実施した結果、むし歯有病率は大幅に減少した。後継者の育成にも注力しつつ、住民の生涯にわたる歯科保健指導への志をもって、母子保健・公衆衛生の向上に寄与している。

吉田 まり子氏



保健師・大分県

地域のニーズを的確に把握し、数々の課題を解決に導いてきた。1市3町合併の際には各市町共同で行動計画を策定。健診・訪問活動では、母親サークル等の立ち上げの推進、地域リーダーの育成など、社会資源の開発に寄与した。ほかにも、就学まで切れ目のない支援としての5歳児健診の実施、小児科医不在という課題では、関係機関の協力を得て小児科医確保につなげるなど、医療にも働きかけながら母子保健体制の整備に貢献した。

當間 隆也氏



医師・沖縄県

臨床遺伝専門医として、長期療養児の支援に貢献してきた。在宅医療が必要な難病の子どもを支援する「ていんさぐの会」では在宅支援のほかキャンプ等遊びを楽しむ体験を提供し、療養児と家族のQOL向上に努める。また、宮古・八重山の離島地区での遺伝相談、特別支援学校の校医として教職員への支援、沖縄県初のレスパイトケア施設の開所など、多様な取組みを実施。重度の医療ケアを必要とする親子のため、支援に尽くした役割は大きい。

千島 洋子氏



助産師・さいたま市

病院に勤務し、長年周産期医療の第一線で活躍。一方で、市からの受託による訪問指導では、支援を要する妊産婦の行政への橋渡しを積極的に行う。そのほか、育児相談や児童・生徒・教職員を対象とした性教育事業、救急隊員等への周産期救急・搬送対応の講師を務めるなど、医療現場と地域の双方に通じた知識・経験を活かし、さまざまな業務に取り組む。平成26年に出張助産所を開業し、今後も支援者としての役割が期待されている。

川島 広江氏



助産師・千葉県

相談者のエンパワーメントを意識した相談事業、産婦主体の出産のサポート、妊婦と家族を対象とした講習会など、助産師ならではの支援に取り組んできた。なかでも、訪問指導等による母乳哺育率の増加は顕著な業績といえる。各団体の役員、大学等の講師も務め、他部門との連携、関係者や地域からの協力・理解の獲得に尽力した。人材育成にも力を入れており、地域全体の母子保健向上に向けて、継続的なアプローチを続けている。

近藤 亜美氏



助産師・静岡県

医療機関勤務時から開業後の現在に至るまで、産後の母子支援に精力的に取り組む。新生児訪問や電話相談等、ストレスを抱えやすい褥婦を心身両面で支援し、うつの予防や次回出産の意欲につなげてきた。地域との深い関わりは、母親が母親を支援するピアサポート「バディプロジェクト」、障害を持つ子と保護者のためのNPO法人「びゅあ」の立ち上げへと至った。母子への支援のみならず、親同士の関係構築に向けたサポートを提供してきた意義は大きい。

藤垣 真貴子氏



助産師・京都市

訪問事業においてハイリスク家庭を支援ネットワークにつないだり、京都府助産師会として乳児一時預かり、無料電話・対面相談、メール相談「にんしんホットナビ」等の事業の立ち上げにリーダーとして携わるなど、母子の不安に向き合い、解決に向けた取組みを実施してきた。母子に関わるさまざまな専門家や公的サービス等と連携し、育児負担軽減・虐待防止へとつなげることを目指したサポートの数々は、今後も継続・発展が望まれる。

大川 明子氏



保健師・神戸市

地域住民、関係者と協働した母子保健活動に精力的に取り組んでいる。阪神淡路大震災の際には、巡回相談等によりニーズを的確に把握し、住民の生活・健康支援の中心的役割を担った。以降も、父親対象の育児講座、児童虐待防止事業、周囲への理解促進を含めた発達障害児のサポートなど、関係機関と連携しながら地域にとって必要な支援を行っている。母子が健やかに過ごせる街づくりに邁進する姿勢は、関係者からも高い評価を得ている。

平成 28 年度（第 38 回）募集要領

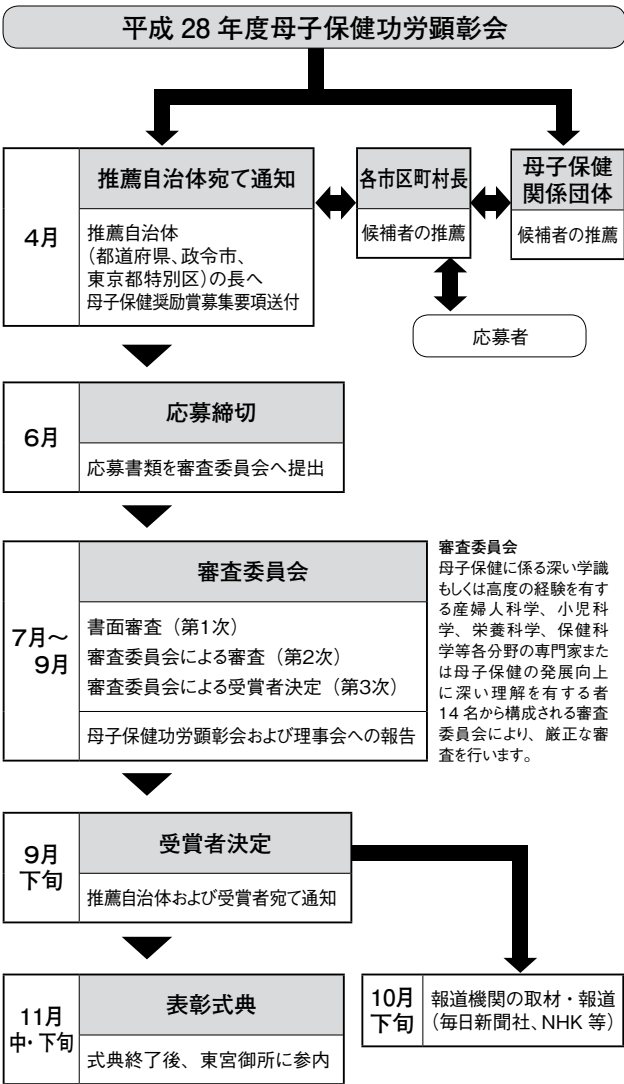
表彰対象 平成28年11月20日現在で55歳未満であり、推薦自治体（都道府県・政令市・東京都特別区）の長から推薦のあった個人で、母子保健事業に5年以上従事し、地域に密着した活動で著しい功績を挙げているとともに、今後も引き続き母子保健事業で大いに活躍が期待できる者を対象とする（内、医師2名以内、歯科医師1名以内）。ただし、推薦自治体（都道府県・政令市・東京都特別区）の本庁の現職員、保健医療機関の長および現職の大学教授・准教授は除くものとする。

表彰式典 平成28年11月22日（予定）

募集期間 平成28年4月1日～6月20日

お問合せ先 公益財団法人 母子衛生研究会 顕彰事業部
〒101-8983 東京都千代田区外神田 2-18-7
TEL.03-4334-1190 FAX.03-4334-1199

母子保健奨励賞の応募から決定、表彰式典までの日程（予定）



※ホームページ「赤ちゃん&子育てインフォ」 母子保健奨励賞のページもご覧ください。